

南九州市地域おこし協力隊 活動報告書

2017.8月

受 入 先	市役所 ふるさと振興室
役 職	移住コーディネーター
隊 員 氏 名	かわぐち とうこ 川 口 塔 子
着 任 日	平成 29 年 4 月 1 日

～ 主な活動 ～

1. “移住者のヨリドコロ project”が始動しました。
2. 基幹産業の後継者不足解消へのチャレンジを開始しました。
3. えいのゴッソイ祭りで「ゴッソイ焼き 2000 食」お配りしました！

1. “移住者のヨリドコロ project”が始動しました。

移住コーディネーターとして、着任当初から着手しているのが「移住検討者や移住者の受け入れ先」を地域内につくることです。私もひとりの移住者として、移住前は地域のキーマンから住まいをご紹介頂き、現在も、地区内の多くの方に助けて頂いています。

前職の“移住相談員”という、東京で移住希望者の相談にのる仕事を通して、人の移住が決まるきっかけは、「訪れた地域で地元の方との交流があり、そこでの暮らしのイメージがついたこと」が大きく、その後、移住希望地において「信頼できる人物と出逢い、つながりができた」ことで、確実に移住へと繋がっている様子でした。

私が既に経験しているように、南九州市には頼れる地元の方が沢山います。その方たちに「私を頼っていいよ」という分かりやすい“旗を立ててもらえたら”，と思い、移住者のヨリドコロ project を立ち上げました。

9月から、本 project の詳細についても、この場でご報告できればと思います。

2. 基幹産業の後継者不足解消へのチャレンジを開始しました。

南九州市の基幹産業といえば、農業。その中でも茶については、市町村単位では全国一の生産量を誇ることは、既にご承知の通りかと思います。しかしながら、生産者の高齢化により“後継者不足”も叫ばれているのが現状です。

これから南九州市が唯一無二の「知覧茶のまち」であり続けるためには、第一に知覧茶自体のブランド価値が高いこと、そしてそれに伴い、生産体制を強化するための労働者を確保すること、そして事業者を減らさないために後継者不足を解消することが重要だと考えています。

上記のことは、今すぐ課題に向き合い始めたとしても、すぐに結果が出るのではなく、長期戦で一段、一段、階段を上っていかねばなりません。まずは、茶のブランド価値向上に寄与しながら、茶農家のしごとに触れる「インターン」を企画し、この課題解決に向けてスタートを切ろうとしています。8月は、本企画実施に向けて、関係団体との調整に着手しました。

3. えいのゴッソイ祭りで「ゴッソイ焼き 2000 食」お配りしました！

地域おこし協力隊としてだけではなく、一地域住民として、地域のイベントにも参加させて頂いています。8 月は、えいのゴッソイ祭りに青年団として参加しました。私は、名物「牛のゴッソイ焼き 2000 食」をみなさんにお配りする係を担当。今まで見たことのない長蛇の列に、とてもびっくりしましたが、皆さんとても喜んで召し上がっていたので、嬉しかったです。



▲ゴッソイ焼き 2000 食を、汗だくで必死に配る様子。



▲祭り会場の様子。薩摩富士がキレイな快晴に恵まれました。